

第6回天王寺動物園経営形態検討懇談会 議事要旨

■開催日時：平成30年8月21日（火）15:00～17:00

■開催場所：大阪市天王寺動物園 レクチャールーム

■出席者：

（委員） 蒲生 武志	蒲生武志公認会計士・税理士事務所 所長
佐々木 利廣	京都産業大学経営学部ソーシャルマネジメント学科 教授
佐渡友 陽一	帝京科学大学総合教育センター 講師
高瀬 孝司	株式会社ジオ・アカマツ 顧問（座長）
宮下 実	公益財団法人宇部市常盤動物園協会 専務理事 兼 ときわ動物園長

（大阪市）

向井 善久	天王寺動物公園事務所長
牧 慎一郎	動物園改革担当部長 兼 天王寺動物園長
休井 良行	公園緑化部 改革担当課長
今西 隆和	天王寺動物公園事務所 飼育担当課長

ほか3名

【議事要旨】

1 事務局より資料説明と質疑応答

<資料>

- （1）経営形態の相違による比較について（再整理）
- （2）動物園法人の組織イメージについて（第5回懇談会の宿題）
- （3）地方独立行政法人化に向けた課題について
- （4）懇談会としての意見集約について

<意見>

- ・市の直営、独法法人、指定管理それぞれを比較したときに、いずれの観点からでもほとんど地方独立行政法人という経営形態がAという評価になっており、天王寺動物園にとって望ましい経営形態としては、地方独立行政法人制度であると考えられる。（総論）
- ・組織イメージで、理事長が経営トップとなっているが、誰がこれを選ぶのかというところがとても大事である。（佐渡友委員）
- ・飼育展示業務を高度化していくのを前提にしたときに、非正規職員がその支えになる、適正なヘルプになるかどうかというのがとても大事である。非正規職員が絶対だめだということではないが、非正規をどのように入れたら、ちゃんと高度化のヘルプになるのかということは、相当慎重に検討するべきである。（佐渡友委員）
- ・人材配置のイメージのところは、正規・非正規を定めることが目的ではなくて、合理的、合理性のある経営戦略、経営基盤を作っていくというところにおける、手段・手法を考えるとときの選択肢としておくべきである。（高瀬座長）
- ・地方独立行政法人化したときに、現在の公園事務所が担っている公園全体の連絡調整機能が失われないようにしなければならない。（高瀬座長）

- ・独法化をきっかけに変えていく部分、独法化によって変える部分、独法化によっても変えられない部分、独法化を検討して変えていくという全ての課題の整理と今後の対策、種類分けというのは、非常に大事である。（蒲生委員）
- ・野生生物の生息域内での保全に貢献することが、動物園の1つの重要な役割であることに留意すべきである。（佐渡友委員）
- ・今後の制度設計の段階で懇談会の意見を尊重して、新しい法人が効果的・効率的に動物園を運営できるようにしなければならない。最終的には議会や市民の理解を得て、進める必要があるので、懇談会の意見もしっかり認識をして、独法化までの間でもできることは着実にやるべきである。（高瀬座長）
- ・新たな経営形態として、地方独立行政法人化を選択する場合、すでに先行する博物館群の法人に合流するケースも考えられるが、メリット、デメリットも想定されるので、具体的に検証する中で十分に検討し、方針決定するべきである。（高瀬座長）

2 閉会